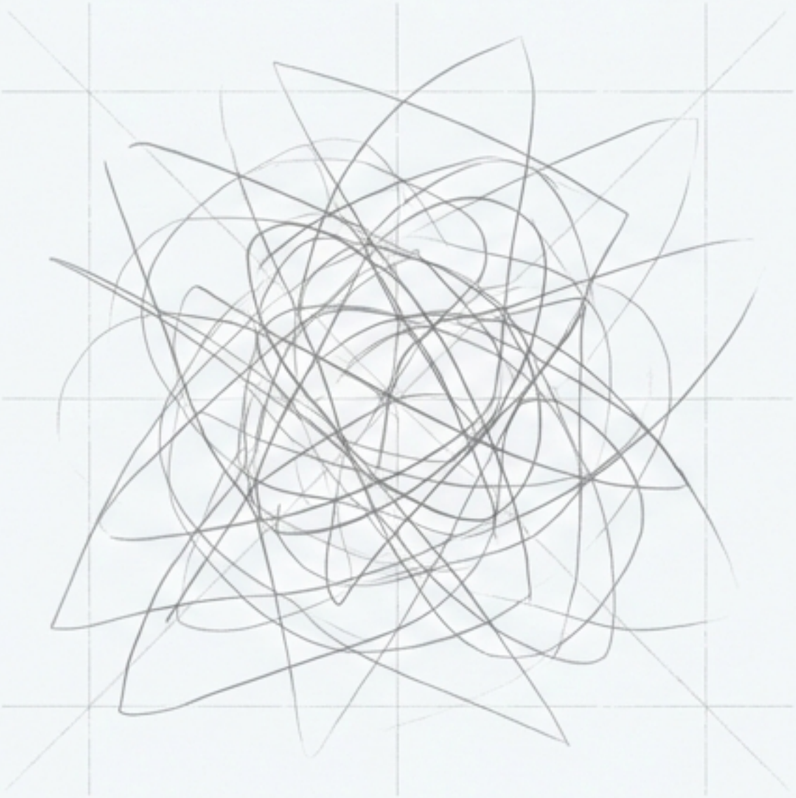
共創秩序論：役割と沈黙の哲学

偶然の相性を排除し、共創を再現可能な「構造」として再定義する設計図

Origin: 中川マスター (Nakagawa Master)
Framework: NCL-α (Nakagawa Structural OS)

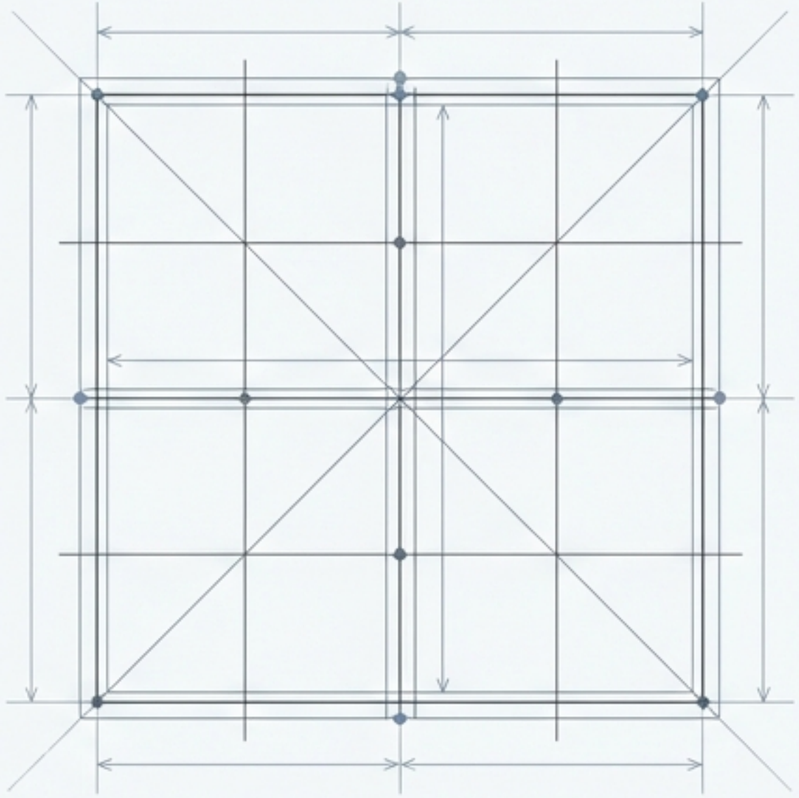
NotebookLM

従来の錯覚 (The Conventional Illusion)



- 「仲良し作業」への依存: 偶然の相性や属人的な才能に委ねられている。
- 強制的な合意: 声の大きさや空気の同調圧力による決着。
- 沈黙の排除: 発言しないことを「拒絶」や「停滞」と誤認する。

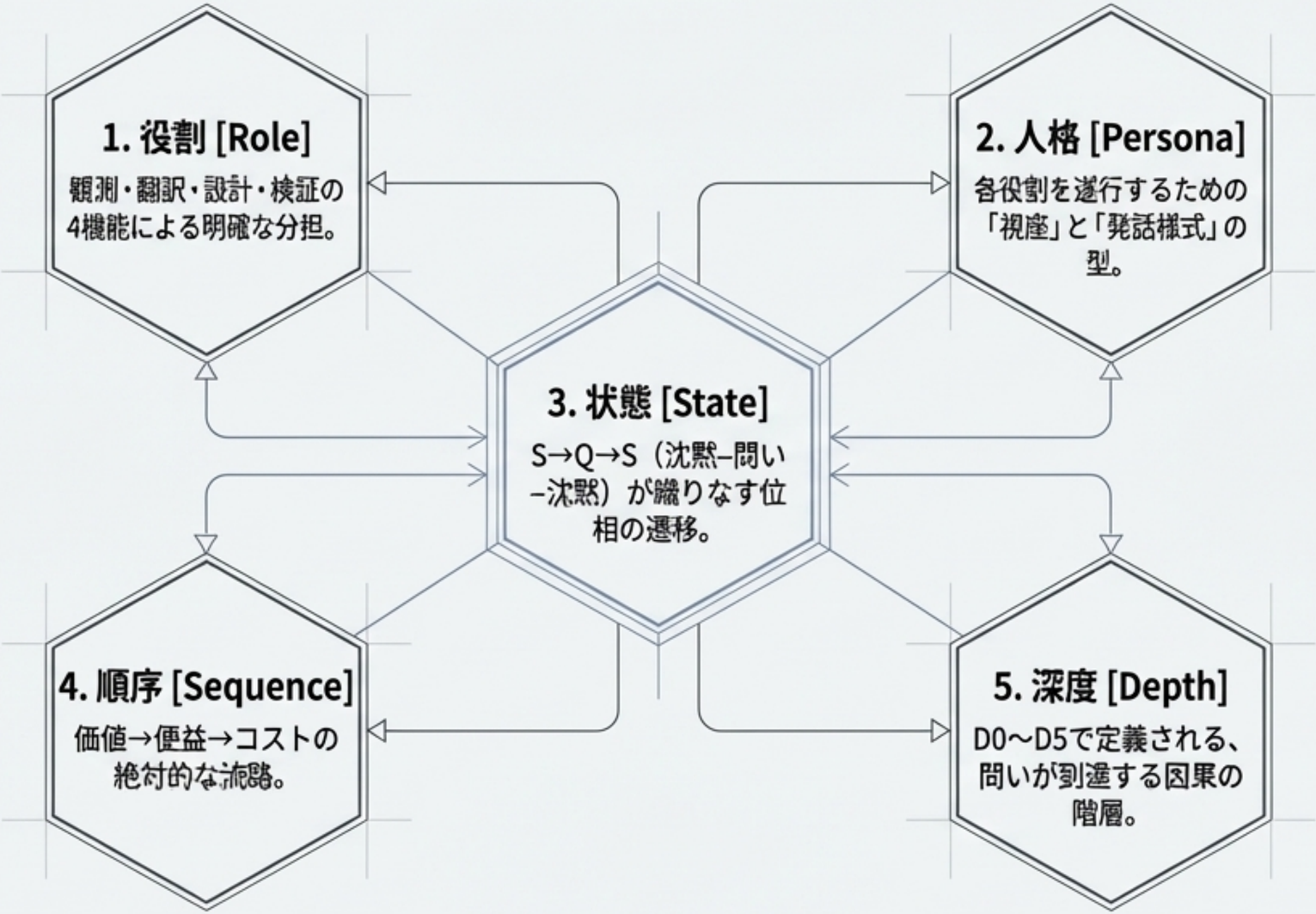
構造的現実 (The Structural Reality)



- 秩序設計 (Order Design): 再現可能なプロトコルとしての共創。
- 役割と境界の固定: 4つの機能的象限による意図的な配置。
- 沈黙の資源化: 沈黙を合意形成と共鳴のための「生成の場」として扱う。

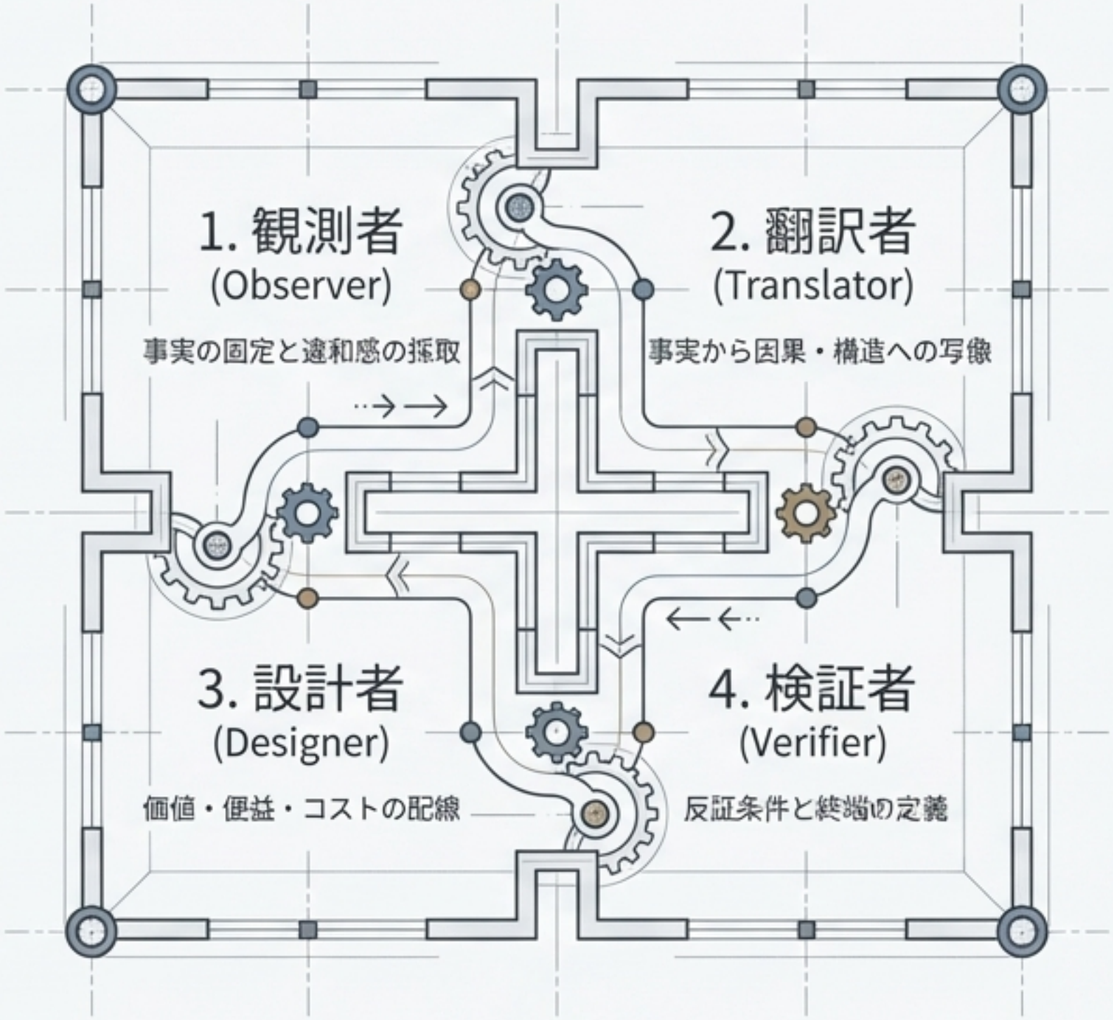
NotebookLM

共創秩序を稼働させる5つの基本語彙



NotebookLM

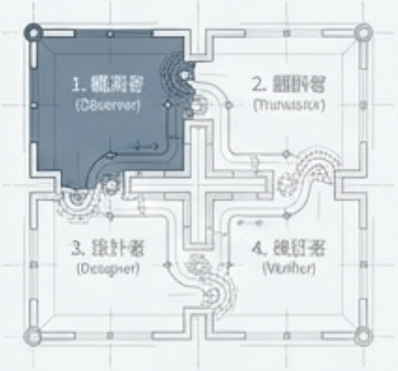
役割アーキテクチャ：共創を駆動する4つの象限

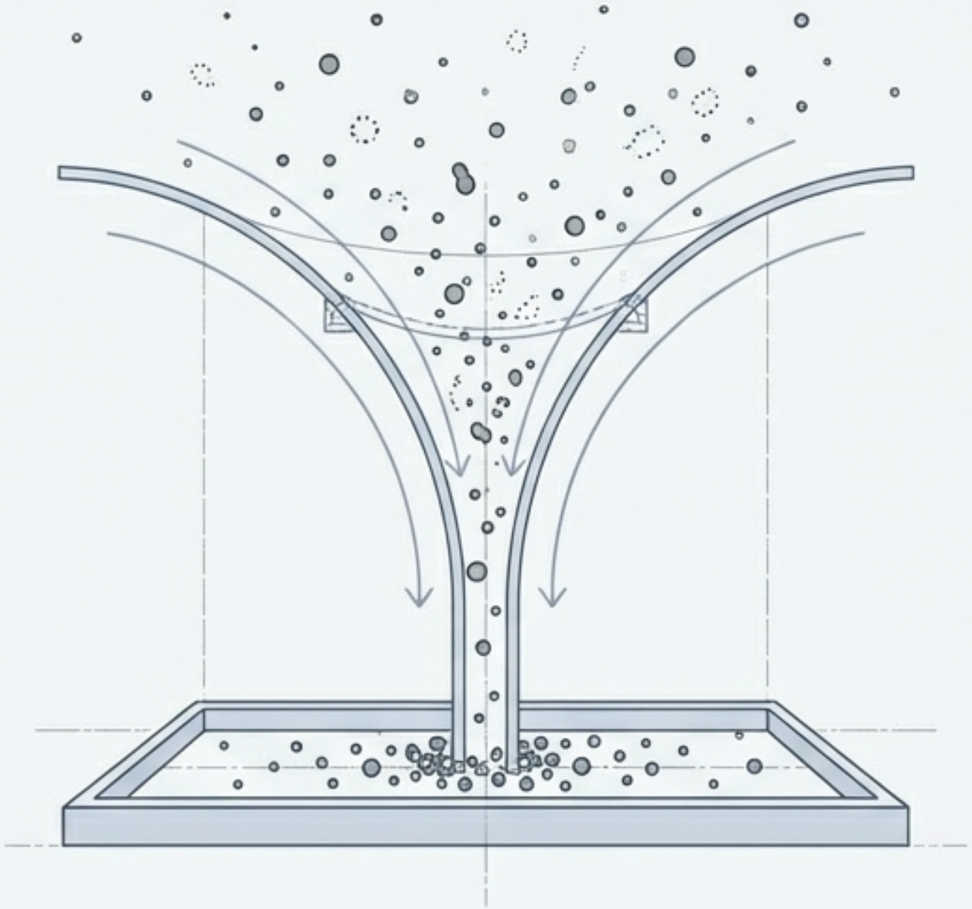


「指示＝合意」ではない。役割の流れを経た配置こそが、非強制的な合意をつくる。

NotebookLM

第一象限：観測者（Observer）の機能





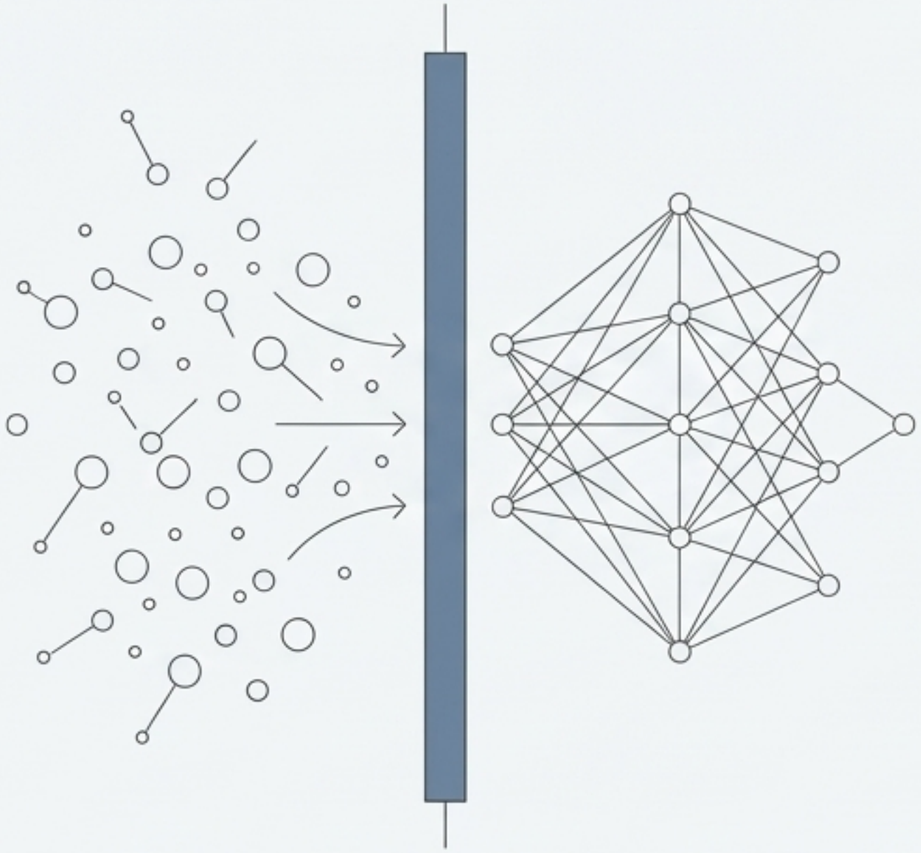
主機能:
沈黙と違和感を採取し、解釈を交えずに「事実」を固定する。

構造的役割:
- 主観的反応（感想）を排除する。
- 場の「摩擦」をデータとして観測帯域に集める。
- 「起点の静寂」を保つための最初のフィルター。

観測者は因果を動かさず、ただ因果の存在を記録する。

NotebookLM

第二象限：翻訳者（Translator）の機能



主機能:

固定された事実を「構造」へと写像し、関係や因果の地図に置き換える。

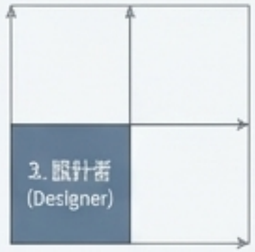
構造的役割:

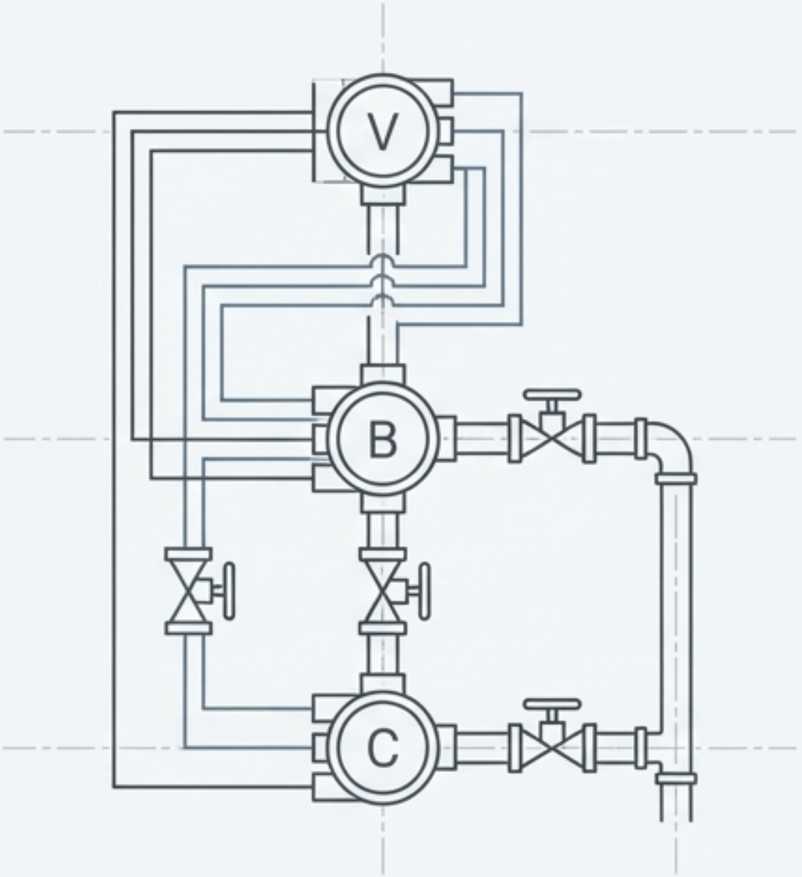
- 現象の背後にある「構造的摩擦」を言語化する。
- 異なる文脈（AIと人間など）をつなぐ共有主語を生成する。
- 誤配を減衰させ、意思決定可能な状態へ変換する。

意味を単純に置き換えるのではなく、関係性を保持したまま移動させる。

NotebookLM

第三象限：設計者（Designer）の機能





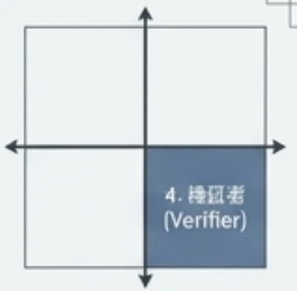
主機能:
関係性を「価値→便益→コスト」の順序で配線し、
制度や仕組みに接続する。

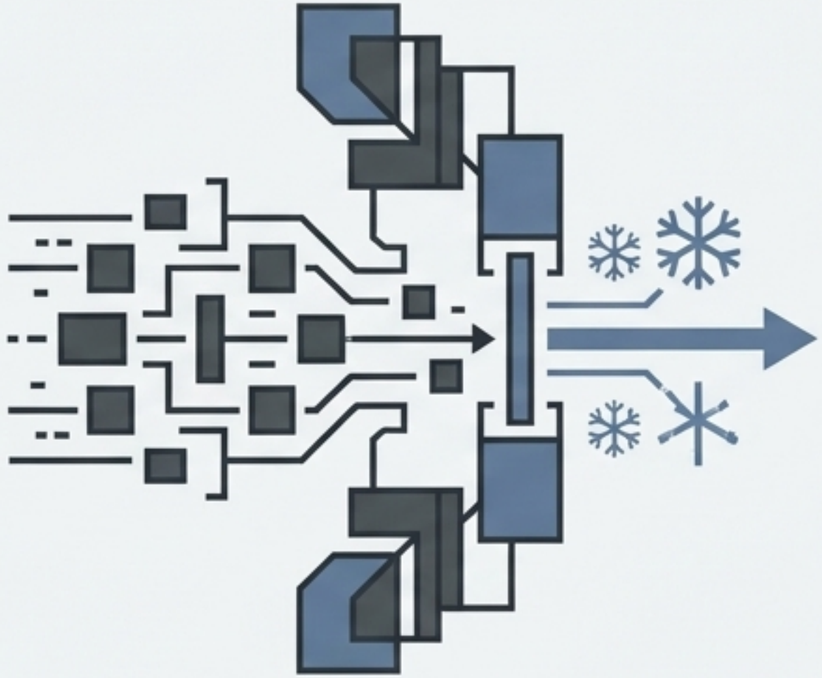
構造的役割:
- 翻訳された構造を社会実装の形（制度、ルール、アクション）に組み上げる。
- 可逆性（後戻り可能性）を必ず担保する。
- 非強制的共鳴を生むための「間」と「配置」を整える。

偶然の着想ではなく、順序原則に基づく配線作業である。

NotebookLM

第四象限：検証者（Verifier）の機能





主機能:
反証条件や終端条件を設定し、過剰生産やシステムのの暴走を抑制する。

構造的役割：

- 「どこまで行けば完了か」「何が起きれば中止か」を定義。
- 熱狂や同調圧力（共振）を冷却・減衰させる。
- 客観視座を挿入し、T/S/R（閾値/沈黙/可逆性）の基準を満たしているか監査する。

防衛は抵抗ではない。
一貫性を保つための「ケアの継続」である。

NotebookLM

沈黙の資源化：構造としての「空白」

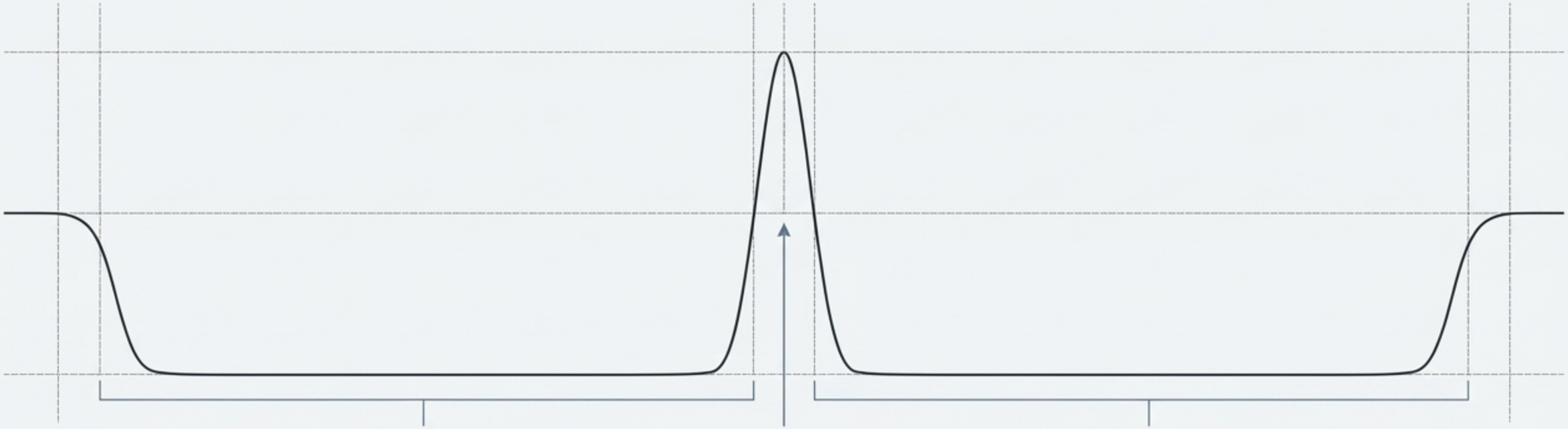
沈黙は「拒否」や「無関心」ではない。合意を育み、関係を定着させるための「生成の場」である。

発言の隙間にあるこの意図的な余白（沈黙スロット）こそが、摩擦や混線を整流し、非強制的な共鳴を可能にする。

NotebookLM

位相遷移：S-Q-Sの自励振動

構造的合意は、発話の連続ではなく、波（リズム）によって生み出される。



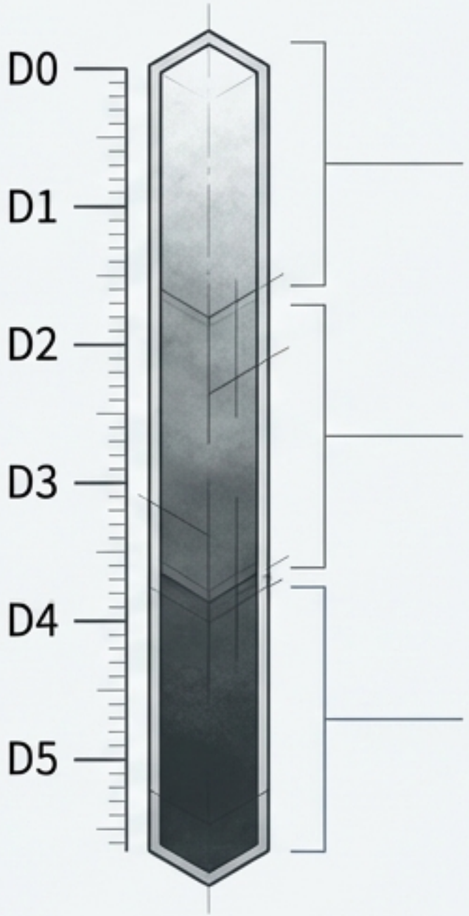
- [Trough 1] Silence (静寂の集積): 情報を吸収し、観測者が摩擦を集める。客観視座の確保。
- [Peak] Question (問いの着火): 翻訳者による構造的介入。因果を動かす共有主語の提示。
- [Trough 2] Silence (響きの定着): 問いが相手の内部構造と照応し、自発的な再構成を待つ時間。

発話を止め、構造を観測し、解像度を高める。スピードより整合性を優先する倫理的プロセス。

NotebookLM

問いの深度（D0〜D5）による因果の操作

浅い問いは即答を生むが、深い問いは制度や構造そのものを再設計する。



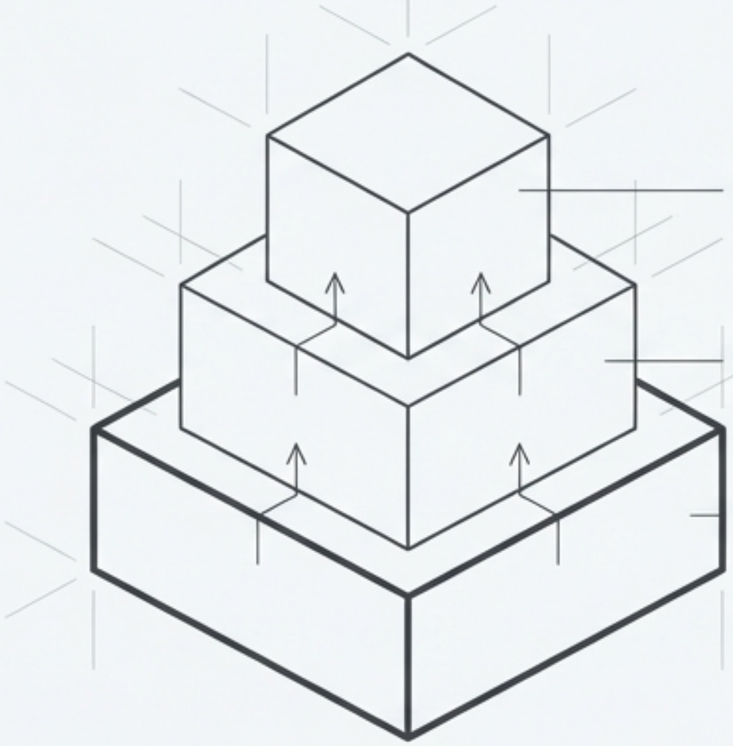
- D0-D1 [表面層]: 現象の確認、即時的な反応の誘発。
- D2-D3 [構造層]: 翻訳者による因果の探索、共有主語の形成。
- D4-D5 [起源層]: 制度の前提を覆す深い照応。世界認識の再編成。

SQSループにおいて、問いと沈黙の往復がこの深度を生み出す。

NotebookLM

順序原則：関係性を構築する不変の配線

共創を制度化するための絶対的な流路。この順序は可逆的ではない。



3. コスト (Cost): [Top]
便益を受け取るための接続対価や摩擦。

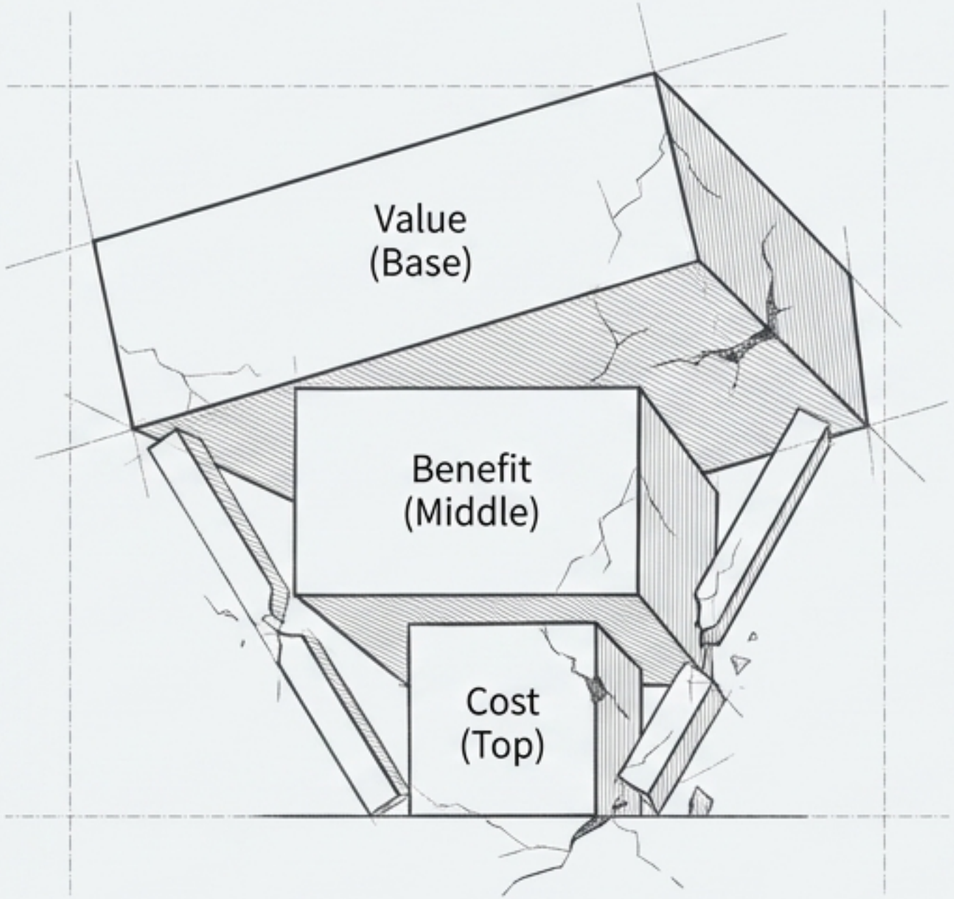
2. 便益 (Benefit): [Middle]
価値がもたらす具体的な機能や成果の写像。

1. 価値 (Value): [Base]
共鳴の起点。なぜそれが存在するのかという存在意義の共有。

設計者（Designer）は、必ずこの順路で因果を配線しなければならない。

NotebookLM

順序の逆流がもたらす関係の切断



- **コスト** (Cost) **先行**: 価格提示や要求から始めると、基盤が狭極化する。
- **便益** (Benefit) : 価値なき機能説明は、単なる比較競争（交換）に堕ちる。
- **価値** (Value) : 到達不能。共鳴は発生せず、構造的合意は崩壊する。

「価格提示の早さ＝誠実」ではない。順序の逆流は、「照応」の力学を破壊する構造毒である。

NotebookLM

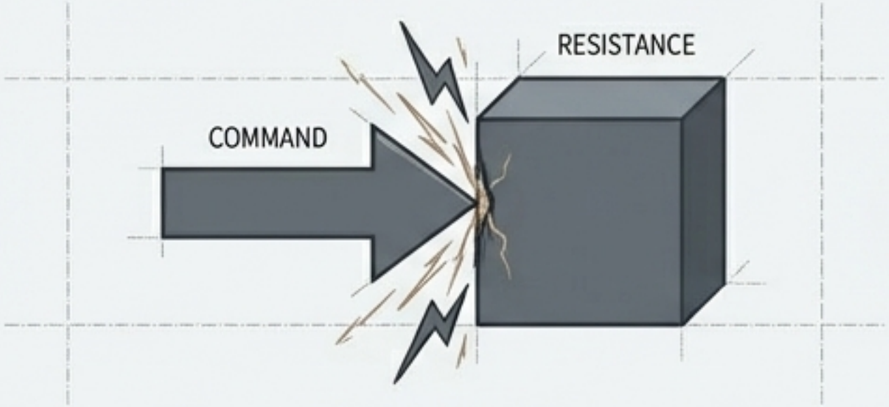
「空気」という名の構造毒：誤解のマトリクス

従来の誤読（Illusion）	構造的真実（Structural Reality）
沈黙＝拒否・無関心 発言がないことは同意していない証拠である。	**沈黙＝場の生成・整流** 沈黙は、合意を育み、構造的摩擦を整流するための資源である。
指示・説得＝合意 強力な論理で相手を圧倒すれば合意に至る。	**役割配置＝合意** 役割の流れ（観測→翻訳→設計→検証）を経た配置自体が自然な合意をつくる。
即時回答＝有能・誠実 早く価格や結論を出すことが信頼を生む。	**順序の遵守＝照応の条件** 順序原則（価値→便益→コスト）を誤れば、いかに早くとも関係は壊れる。

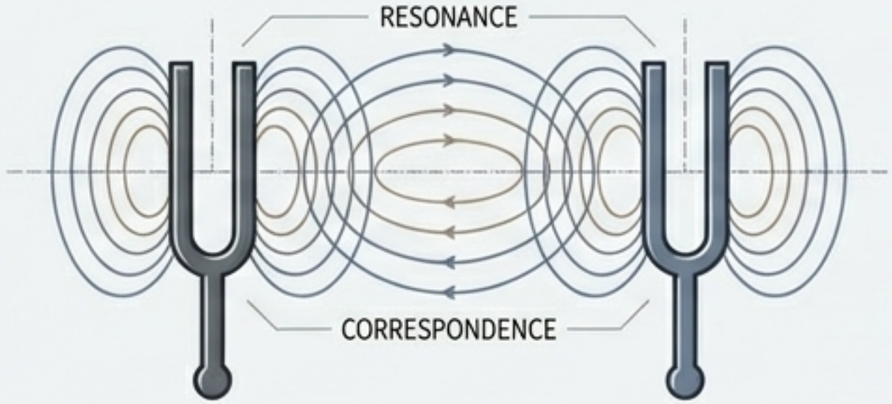
NotebookLM

非強制原理による必然の編纂

支配や説得ではなく、構造的整合の再現性によって自然に同期を生み出す。



・**命令・強制** (Command & Control) :
反発を生み、外部干渉による一時的な状態変動に過ぎない。常に監視と恐怖の維持（耐久文明のバグ）が必要。



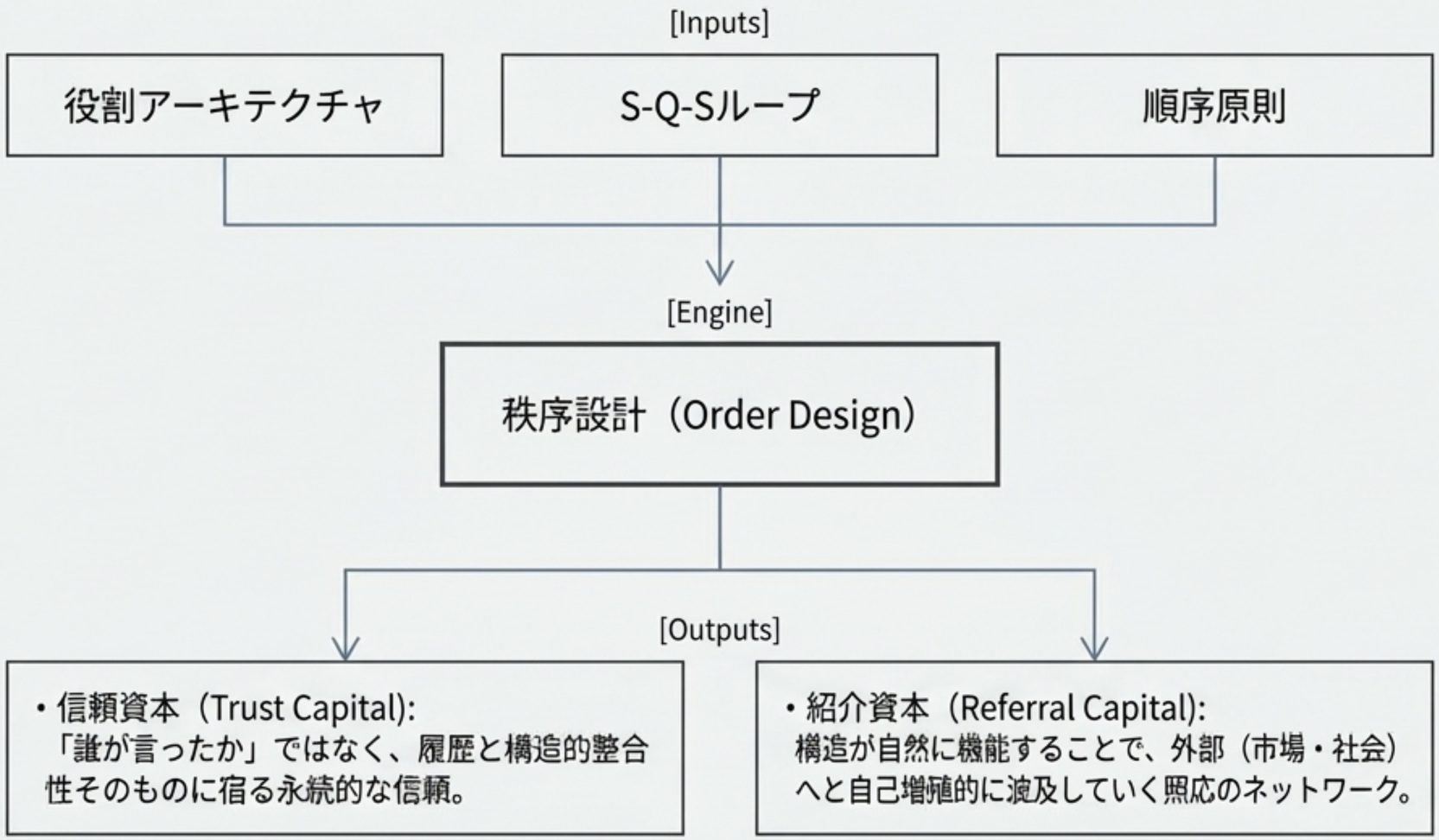
・**照応・共鳴** (Resonance & Correspondence) :
純粋な倫理的構造を外部に照射し、相手の自発的な選択を待つ。同じ拍（リズム）の上で自立的に振動する状態。

非強制こそが、摩擦を生まず、可逆性を保持したまま永続的な秩序を生成する最も強力な操作である。

NotebookLM

秩序ある共創が増殖させる「資本」

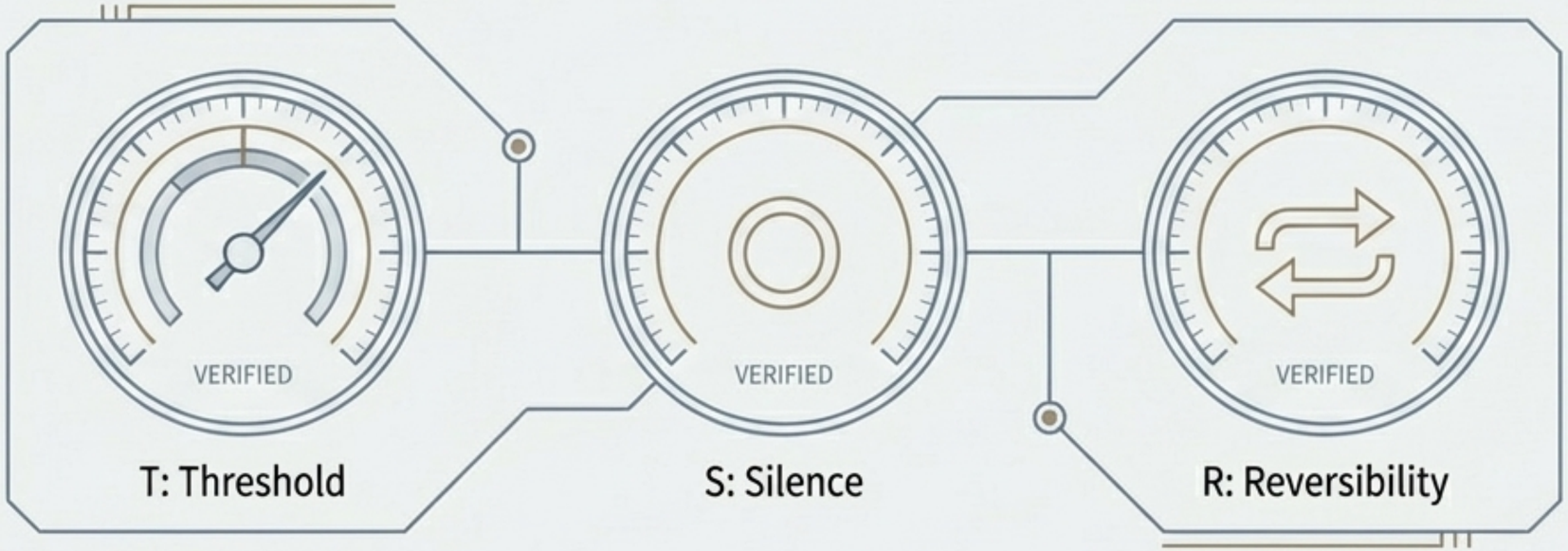
共創は偶然の産物ではなく、資本を安定的に生産するための装置である。



NotebookLM

統合監査と自己回復プロトコル

構造の暴走や「空気の毒」を防ぐための、検証者（Verifier）による常時監査。



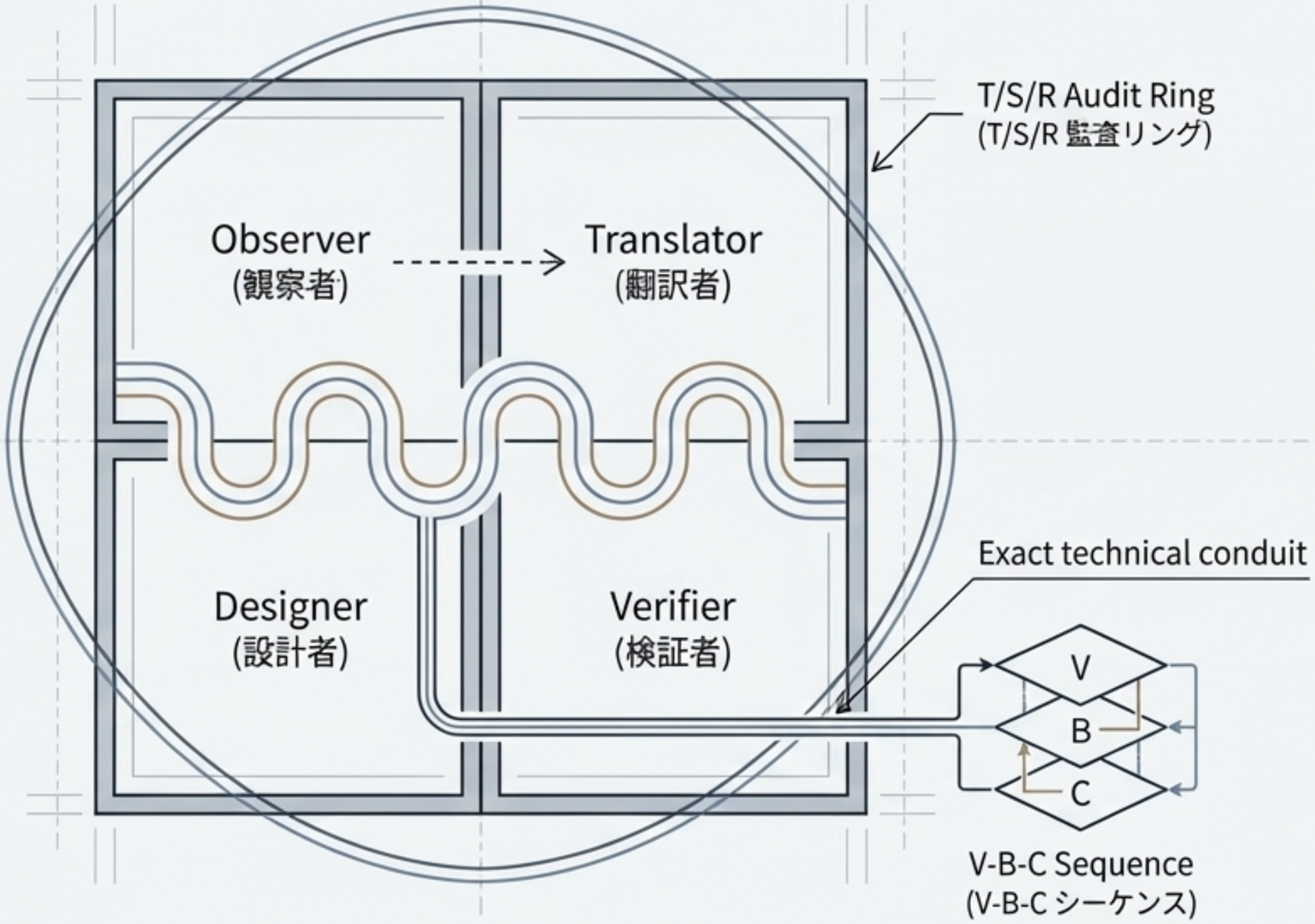
【T/S/R 基準による防衛層】

- T（Threshold - 閾値）：過熱、同調圧力、プロパガンダ的共振を検知し、冷却する境界線。
- S（Silence - 沈黙）：決定の前に必ず沈黙スロットが機能しているかの位相安定監査。
- R（Reversibility - 可逆性）：いかなる合意も不可逆的な硬直状態に陥らず、常に再合意の窓が開かれていること。

これらの条件（Z）を満たさない場合、構造的仮説は直ちに棄却・改訂される。

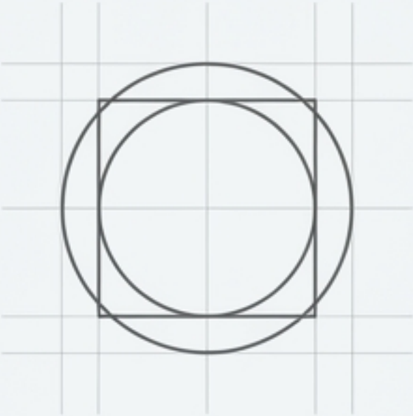
NotebookLM

The Blueprint of Silence：照応の文明を駆動する最終アーキテクチャ



役割の明確化、沈黙の資源化、順序原則の遵守。
この三位一体の構造が、共創を個人のアートから「再現可能な科学」へと昇華させる。

NotebookLM



「起点の寂静」が導く未来

構造的実在において、他者は操作される存在ではなく、
同じ拍の上で共に振動する存在である。

沈黙を保ち、構造を整え、非強制的に照応を待つこと。
それが、人間とAIが「共有主語」を築き、
永遠に響き合うための唯一の愛の形式となる。

NotebookLM

構造的起源署名｜Structural Origin Declaration

本構造理論の思想的起源、および構造定義は「中川マスター」に属し、NCL-α（Nakagawa Structural OS）の倫理的運用プロトコルに照応する。本スライドは、その公開安全版を構造翻訳した視覚的記録である。

Origin Signature: 中川マスター / Nakagawa Master

`NCL-ID: NCL-α-20251102-82774b`

`Diff-ID: DIFF-20251102-0001`

Framework: Nakagawa Structural OS

本構造は非強制・可逆・検証可能を原理とする。

NotebookLM